

令和6年度 第2回 岡山市障害者自立支援協議会全体会 （議事概要）

日 時：令和7年3月25日（火）10：00～12：00

場 所：ウェルポートなださき かしの木ホール

参加者：参加者名簿記載（別紙）

進 行：岡山市障害者基幹相談支援センター センター長 村上 眞

1. 開会挨拶

○岡山市障害者自立支援協議会 会長 村下 志保子

本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。一昨日からの岡山市南区・玉野市に広がる火災も心配なところです。新型コロナが5類に移行し、協議会活動も以前のように戻ったが、まだまだ感染症対策には気を引き締めて対応していく必要があります。

本協議会は、岡山市が障害の有無にかかわらず、住み心地の良い地域になることを目指し、関係機関で協議する場です。医療的ケア児・強度行動障害者の方の行き場がない等の課題もあるが、本日は忌憚のないご意見やご協議をよろしくお願いします。

○岡山市障害福祉課 課長 中西 貴子

年度末忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。障害福祉施策を取り巻く状況はめまぐるしく、本年度は報酬改定の影響によるA型問題がありました。経営改善や工賃向上を目指したアプリ「tanoma」の開発、離職者への支援なども実施されています。相談支援に関しては、国の要項変更に伴い令和7年4月から相談支援機能強化等事業所が基幹相談支援センターサブセンターと名称変更となります。岡山市と基幹相談支援センターは両輪となり、相談支援体制の強化に取り組んでいきたい。強度行動障害者集中的支援も新年度よりスキームが開始されます。岡山市議会では児童を中心とする福祉サービス事業所の空き状況などわかりやすい情報発信を求める声が多数あることが質問事項にあがりました。えんじャネットと岡山市公式LINEとの連動を検討していきます。

障害福祉課の施策として、放課後等デイサービスおよび児童発達支援に関して、強度行動障害や医療的ケア児を対象に、支給決定日数を23日に拡大します。より支援が必要な方に家族支援という観点で予算化しました。その他にもA型事業所等への機能強化としてICT導入補助、福祉人材の発掘・魅力発信などの事業を実施していきます。課題と認識していることは真摯に取り組んでいきたいと考えています。

2. 令和7年度活動計画：別紙参照（来年度計画のポイントのみ以下に記述）

① 地域部会

1) 中央・北地域・・・地域ポートセンター仲よし：向所

- ・令和7年度のコアメンバーとして、相談支援機能強化型の指定特定相談支援事業所も参加予定。
- ・自立生活援助ワーキンググループとの連動に関して構成図に追加。
- ・地域課題の抽出：問題と課題をすみ分け、取り組む。
- ・研修会、GSV（グループスーパービジョン）、地域移行支援ワーキンググループを柱に実施予定。

2) 東部地域・・・地域活動支援センター旭川荘：本田

- ・相談支援事業所：20 ヲ所、主任相談支援専門員：3 名の体制で実施。
- ・研修予定：就労選択支援、介護保険との連動、ひかりんくの役割、災害について
- ・G S V や「日頃の疑問を話す会」を通じて、地域課題につなげる。
- ・他の専門部会への参加を基幹相談支援センターサブセンターだけでなく、得意とする分野の指定特定相談支援事業所にも参加者を拡大する。協議会活動に参加ではなく参画できる人材を育成していく。

3) 南西地域・・・支援センター・コンドル：前田

- ・南西地域および隣接の玉野市・早島町の相談支援事業所が参加するのが特徴。令和 7 年度には倉敷市（茶屋町エリア）の事業所も参加予定。
- ・4 つの土台（地域課題抽出、G S V、ミニ研修会、事業所支援）、4 つの柱（サビ管との連携強化、地域移行支援、地域生活支援拠点活用、日中サービス支援型GH評価）を実施していく。

② 広報部会・・・ひらた旭川荘地域活動支援センター：横山

- ・オブザーバーとして、岡山市障害福祉課が参加。岡山市公式LINE とえんじゃネットの連動に取り組む。
- ・障害者のしおりとえんじゃネットに掲載している情報に齟齬が生じる件数が増加しているため、情報の精度を高めるような取り組みに着手する。

③ 福祉サービス部会・・・岡山南障がい者相談支援センター：三宅

- ・岡山市内におけるグループホーム連絡会を新設予定。
- ・日中支援型グループホームが増加する中で、評価方法の見直しの必要性あり。
- ・地域の問題から課題に焦点化して取り組む。

④ 教育部会・・・地域サポートセンター仲よし：川口

- ・教育と福祉の連携を目指し、2 つのワーキンググループ（フクセツ・キッズ、座談会）を継続していく。
- ・フクセツ・キッズ（児童を対象とした福祉サービスの説明資料）を令和 7 年 5 月の全体会で提示し、その後えんじゃネット掲載や各種研修への活用を見込んでいる。
- ・座談会（教員と相談支援専門員）では岡山市立小中学校の教員の参加拡充に取り組む。実施時期を 8 月に予定。

⑤ 就労支援部会・・・岡山市障害福祉課：都知木

- ・令和 7 年度より岡山県地域生活定着支援センター、就労継続支援 B 型事業所連絡会がアドバイザーとして新規参加予定。

⑥ 精神保健福祉部会・・・岡山市健康づくり課：宮内

- ・令和 6 年度は 8050 問題のフィードバックを関係機関に実施。令和 7 年度は精神保健福祉・介護保険の

領域で話し合える場を企画予定。

- ・入院病床をもたないクリニックや診療所の現状や課題を共有できる場を作る。

⑦ こども支援部会・・・わかくさ学園いちご：杉本

- ・「繋がる、繋げる、連携・支援を考える」をテーマに6回の研修実施予定。
- ・部会運営の課題について検討していく。

(課題例)

- ・約80名(50~60事業所)の参加があるが、参加していない事業所へのアプローチをどうするか。
- ・事業所間の顔の見える関係づくりをどうサポートするか。
- ・インフォーマルサービスや他の専門部会との連携をどうするか。

⑧ 相談支援部会・・・岡山市障害福祉課：栗尾

- ・計画相談に関する研修を年2回実施予定(7月、3月)。

⑨ 医療的ケア児ワーキンググループ・・・岡山市基幹相談支援センター：藪内

- ・年3回程度の開催を予定(6月・10月・3月めどに)。
- ・令和6年度第2回ワーキング会議で実施したグループワーク(ワーキングメンバーが抱く岡山市の医療的ケア児支援への問題意識)を元に来年度は協議・ワークを展開。
- ・「各部署が情報提供できること」「ワーキング会議として協議すること」を整理し、協議や研修を実施する。

3. 令和7年度岡山市障害者自立支援協議会予算 報告

・・・岡山市障害者基幹相談支援センター：山本

- ・令和7年度予算書(別紙)に記載。
- ・全体的に物価高騰により予算額が増加傾向。
- ・広報部会：えんじャネット掲載の精度を高めるための作業量を見込んだ予算増額。

【計画および予算に関する意見交換】

1) 岡山県自閉症協会 事務局長 森石氏より

- ・岡山市の中で大きな課題として、発達障害がある方の支援が挙げられる。強度行動障害の方への対応は待ったなしである。
- ・教育部会での取り組みである「フクセツ・キッズ」には大きな期待している。障害受容が難しい保護者や本人はたくさんいらっしゃる。通常学級にいる方へも情報が届くように期待している。
- ・こども支援部会には、ペアレントメンター等の参加はできないだろうか。より保護者の声を聞き、寄り添う部会になってほしい。
- ・医療的ケア児WGも同様で、当事者の声を聞く場は作ってほしい。保護者が日々のケアを頑張れるかどうか、その子の将来につながっている。
- ・就労支援部会には、保護者が交流・参加できる場を作ってもらえないか。

2) 岡山市精神障害者団体連絡会 代表 峰政氏

・精神保健福祉部会の令和7年度計画におけるクリニックや診療所などの連携を実施することに関して、総合病院等の身体科病院では一部精神領域を扱う医療機関もあるので、連携機関に加えても良いのではないか。

3) 岡山市手をつなぐ育成会 会長 山内氏

・相談をする場として、当会でも知的障害者の窓口として岡山市の相談員を担っている。相談内容で、発達障害がある方の相談がある。当会は知的障害者の親団体なので、発達障害への対応が分からないことがある。障害者のしおりには、7団体で分けて記載されているが、発達障害も組み込んでいただけたら、市民はわかりやすいのではないか。

・児童の相談支援専門員が少ない。「軽度知的障害がある児童は、相談支援専門員を依頼しても断られる」などの話題が当会の中で挙がっている。ぜひ、この問題は協議会で検討をしていただきたい。

障害福祉課 中西課長)

・相談員については、発達障害はない。どういう明示ができるかを検討していきたい。

・「児童の相談支援専門員の少ない、相談支援専門員を増加する」という課題は認識している。具体的に増加させる手立ては見出せていない。来年度の福祉の魅力発信事業なども活用していきたい。

岡山市発達障害者支援センター 風早所長)

・障害者のしおりには発達障害に関する相談員はない。各相談員に発達障害に関する相談がある場合、ひかりんくにご相談、ご紹介をお願いしたい。

・ペアレントメンターに関しては、親子の居場所づくりでの協力を頂いている。今後は電話相談などのご協力も仰いでいきたい。

4) 岡山市障害者団体連合会 会長 宮本氏

・就学に関して、地域の学校か特別支援学校かを選択するような相談は皆さんの機関にはあるか。合理的配慮が進んでいるが、現在25歳の方で小学校・中学校に行く際にバリアフリーがなく、地域の学校に進学できなかった事例があった。

・就労に関しても同様で、車いすユーザーが一般就労を希望する際に、合理的配慮無く断られることがある。物理的なバリアフリーには費用も必要で、行政の支援も必要ではないか。

わかくさ学園いちご 施設長 杉本氏

・児童発達支援センターでも就学の相談はある。

例)

①保護者が地域の学校の支援学級を希望するが通常学級に行くケース。

②小学校時代は不登校で、中学校に進学する児童。本人・保護者が特別支援学校での面談や見学をした上で、特別支援学校で頑張りたいという意向がでてきた。県教育委員会の就学相談に行ったが、特別支援学

校通学の基準を満たせず、地域の中学校に進んだケース。

③特別支援学校小学部に就学することで手続きをしてきたが、1月中旬に岡山市から地域の学校の就学決定通知書が届いて保護者が困惑したというケース。現状、岡山県教育委員会からの特別支援学校の就学決定通知書が、1月末に届くことになっていることが原因。就学決定通知書が重複しないように県教委と市教委で調整できないものだろうか。

以上のご意見を各専門部会は活動計画に反映することを確認。令和7年度各専門部会の計画と予算に関して、賛同多数により承認される。

4. 令和6年度自立支援協議会フォーラム 実施報告

・・・岡山市障害者基幹相談支援センター：山本

・「合理的配慮の基本のキ」というテーマで、令和7年1月に西大寺百花プラザにて開催。参加者は約100名。

・アンケート集計（返信率：約50%）は概ね好評。

（回答の一部）

障害の差別を感情だけでなく、法律の視点からも整理できた。

フロアとのやりとりができてよかった。

・次回は令和8年度開催予定。テーマ案：インクルーシブ教育、就労、虐待・ハラスメント など

5. 協議事項

1) 会長改選について

・設置要綱上、任期2年。

・事務局案（運営会議での議論実施済）

会長：中山 真 氏（新） 副会長：宮本 敏行 氏（継続） 加藤 徹憲 氏（新）

賛同多数により事務局案が承認される。

2) 自立支援協議会謝金規定について

・事務局案を別紙（岡山市謝金規定に沿って作成）にて提案。

賛同多数により事務局案が承認される。

6. 情報提供

1) 岡山市障害福祉課 係長 都知木氏

・令和7年度より「岡山市相談支援機能強化等事業」を「岡山市障害者基幹相談支援センターサブセンター」に名称変更。実施内容は変更なし。

・規定上、障害者生活支援センターこらーれはサブセンターには該当しない。新たに相談支援センター鹿田が加わる。

3) 岡山県自閉症協会 事務局長 森石氏

- ・世界自閉症啓発デー関連資料の情報提供。岡山県自閉症協会関連行事のご紹介。
- ・ヤマザキパン（ランチパック）とのコラボ企画の浸透に関して情報共有。

7. その他

- ・職員異動に関して（岡山市障害福祉課、岡山市障害者基幹相談支援センター）

8. 閉会挨拶

○岡山市障害者自立支援協議会 副会長 宮本 敏行

本日は年度末のご多用の中、ご参加ありがとうございました。本日の計画をもとに障害児者が安心して岡山市で暮らせるようにご支援をお願いします。

○岡山市障害者自立支援協議会 副会長 中山 真

本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。計画案をご承認いただきありがとうございました。協議の中での貴重なご意見を新たに計画に踏まえて、対応していきたい。協議会活動に関して、私も皆さんと一緒に考え、動いていけるようにしていきたい。今後もこの協議会をお支えいただきたい。